

中学校給食スクールランチ あたたかい献立の提供に向けて

令和5年4月
東久留米市教育委員会学務課

東久留米市教育委員会では、中学校給食スクールランチの内容の充実を目指し、「あたたかい献立」の導入の検討を行っています。

これまで、生徒の皆さんや保護者の方々から「あたたかい汁物がほしい!」「スクールランチに汁物がついたら素晴らしいメニューになるのではないかと思います。」などのお声をいただき、実現に向けて、様々な手法を調査検討してまいりました。

その中で、【個別容器を用いた提供方式】が最善と考え、2025（令和7）年度の夏休み明けの導入を目指して、取り組んでいます。

【個別容器のイメージ】

これまでのランチに加え、マグカップサイズの個別容器で、あたたかい汁物を提供します。

スープ類の他、カレーのルーや麺類のソース・つけ汁、フルーツポンチのようなデザートも想定しています。



【個別容器を用いた提供方式】とした検討経過

あたたかい献立を提供するには、学校であたため直す方式や、調理場からあたたかいまま配送する方式が考えられますが、学校であたため直す方式は、学校に調理施設・設備を整備するのに困難な課題が多く、あたたかいまま配送する方式のほうが実現可能性が高いと判断しました。

あたたかいまま配送する方式のうち、食缶で配送し学校で配膳する方式（小学校と同様）も検討しましたが、学校内での運搬や教室での配膳場所の確保、配膳時間の捻出などに課題がありました。

一方、個別容器での提供は、食缶での配膳で課題となる事項を回避できるうえ、献立のバリエーションが豊富になるというメリットがあります。なお、これの実施に伴って、AB選択の存続や副菜の品数などに影響が出てくることも想定しています。これらの対応を含め、献立内容全体について検討してまいります。

◀「あたたかい献立」

取り組みのきっかけは・・・»

富田市長は就任にあたり、今後の市政運営の展望として「未来を創るための八つの策」を掲げました。そのうちの「子どもが豊かに成長できるまち」において、「現行の弁当併用スクールランチ方式を基本としつつ、温かい給食を提供できるよう、民間事業者と連携しながら取り組んでまいります。」と所信を表明しました。



今後の検討状況は、適宜お知らせしていきます。